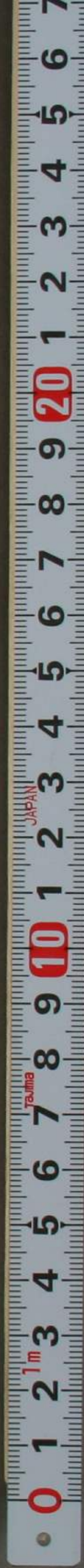


洋学文庫
文庫 8
C 309
1



嘉永戊申新鐫

夢遊道人著 全四冊

西洋雜記

江戸書林 文苑閣藏版

西洋雜記序

歐陽子曰。至哉天下樂。終日在几案。嗚呼。公之在官也。切陳時事。深憂朝政之不平。邊境之不安。而其言之如此。則可知公平日能致至樂於几案。而以養其志矣。況今海內密清。則苟好書者安



可不盡其樂而求諸外也。西洋雜記山村才輔氏者所著。記載彼州建國風俗及物產奇談矣。聞夫才輔氏之為學不求名聲。當時衆皆從事醫學。而獨專力於地理。嘗著增譯采覽異言。又有此著。迩來雖學地理者頗多。而亦

執事苦志如才輔氏者也矣。然則此書之可知其不苟成而已。古者大禹鑄鼎塗山。而人初辨九州神靈。周公用重譯而漸知德之感遠事矣。今也象胥之學。而有人譯書數布於世。於是目不空一丁左行字者。而得西洋萬里視諸掌上。

柳昌平之餘裕。而可不謂讀書境裏
加一樂事。我若夫華夷之利害。即此
此書之所敢闡也。亦非樂志於几案之所
敢論也矣。弘化四年丁未九月望。益堂
鈴木善教識于駿臺僑居。



西洋雜記卷一

目錄

- 世界開闢の説
- 洪水并聖人諾厄の説
- 罷鼻尔の高臺の説
- 西洋古今四大君の説
- 罷鼻落你亜并百兒西亞の二大君傳統の説
- 厄勒西亞國大君の説
- 邏馬國大君の説
- 西洋中興革命の説并諸國年號の説

ヘブレウスの少年火中に入れて焼ける説

天より項奪馬國を焼く説并項奪馬此異菓の説

并西洋諸國男色を禁むる説

茅索祿斯王の瑩陵の説

アレキサンデル大王諸將は寶物を賜ふ説

并乞兒は千金を施す説

君を弑する逆賊雷霆は撃つ説

カールレルゴロト帝邪魔の祠を毀つ説

邏馬國銅甲の説



西洋雜記卷一



予近年志を西洋の學に興し、磐水先生は後事として其讀書譯文の法を習ふ。既して先生は侍するの間、或其語路文義を問ひ、或彼邦俗事情を問ひ、彼書を閲するに、間ニ奇説を得る事あり。ハ、則是を懷中の小紙に録せしむ。此、尔後歲月を経るに、隨て筐笥中に充溢し、おもしろく、頃日是を淨寫し、其讀書文義語路に係る者ハ一編となし、以て彼邦書を讀む時の考證に備へ、此

其紀事奇談雜技物産等を記し名けて西洋
雜記とし實學の用の中られしことども或以
て聞見を資くするも足らん然も予が短
才淺學する記をとり深く謬誤あらんこと
を怕れあへく君子の覽よ呈せんとははららば
予が遺忘の供するもの
享和改元秋八月朔旦山村昌永識

世界開闢の説

太古の世造物主すて天地を造成しそのち人の始祖
男女二人を造りて「エデン」の地を置く其所
居を號して「エデン」とす

按「パラデ井ス」ハ樂界とす義なり奇器圖
説ハ地常良和之處とし是なりす西書を按
よ「パラデ井ス」の地ハ今の「アルメニア」國「帝曷爾
伯祈國」歐法臘得河「チギリリス」河「ダウロス」山等
の間たりと「ヘブレウス」の語太古一種の方言より「ハルテ
ス」とし「ギリキス」國の語より「パラデ井ス」と

其男を亞當アダムとシ、女を厄薇エビとシふ。

一、いさく、造物主天地を造成してのち、二塊タマリの土を搏成ダンして、此二人の形を造り、萬民の始祖となす。ちよ人死すまば元ウチの土は復カクるの義を明カクくよせる。このなりと、是ハ今の神道者と稱するも、此の強て已く私意を以て上古の事へ理を附會するは同く此此説最怪誕なる也。

其地すくく氣候融和なり。人疾病たなく。又憂苦なき。天すくちよき。水流の派ハを分ちく。四の大河とちりく。美魚多く。

あき今の安日河ガングスチギリス河インド印度河チウフラ一、名欧法臘得河の四なりと。ちよき。其ハラテイスの地。今の東印度の地。及ぶる。や。すく地理の書。印度北南海。則意蘭島の中。アダムスバンク」と云地あり。相傳ふ。是古亞當居り。所の地ありと。皆詳あらば。すく清蔭美景あり。人をすく憩息ケイシクせむる。宜ヨシく。其他五穀百菓美味の物。天地自然生成して。絶て人力を勞せず。鳥獸と群を同し。すく。鳥獸みな人の命メイを聽く。敢て人は害をなす。然る。年を暦く。邪魔虚ウカ以伺カクりて。慢心マンシン漸生す。

一よいそく其は神の憩息する所の一箇の大樹の上より一蛇の廻繞を見るあへて意となさば此蛇ハ乃ズナチ邪魔の變化せるものなり其虚を伺ヒいて驕慢の心を生ぜしむといふ

厄エ穢ガ言は因てアダム亜當もす天の教戒をばむきて共小罪を造物主より得たりさきよりして地氣燥變して五穀生じざりて鳥獸害をちり生先病死飢寒此患を免じば男子ハ其耕田の勞苦を罰し女子ハその生育の艱辛を罰し是よわいりてアダム亜當自耕田の器を造りて扱の衣食をいとあみ始めて火食を知る

すく木を伐りて屋を造り以て寒暑を避く厄穢生む所乃子多き中其第一子をカインといひ第二子をアベルといふ此二人の世よりして始めて城邑を建て居りてカインハ國王の始とありて政化を施し人類次第に蕃息し此時人壽は長し數百歳を保つ者少かりし

一よいそく亜當ハその壽九百三拾歳たりとさきより以後乃事體を四に分ち「ゴシュ」銅「シル」銀「コル」銅「エル」鐵「ゼル」乃四「テイド」と號りテイドハ時代又時候の義さき金銀銅鐵乃四に配して時代を分ちしめる者なりて人間日

用の諸器財乃至樂器の類までも多くハ此時代の内ニ造成せりといふ。

洪水并聖人諾厄の説

洪水ハ今称して「ソンドフルウド」といふ。上より「エイゼルテイド」の世の末よりいりて、即西洋開基第一千六百五拾七年あり。此時聖人諾厄なる者あり。ラメキスといふ人の子あり。あきより前ニ天の告よりて預此事を知りて、一の極めて大なる匣を造る。其制恰船の如くして衆の人を容る。上下四面ニ窓固密よあれと塞ぐ。名けて「アルク」といふ。是今い

類る。今の西洋の四月よりと記せり。概り。大の歳の第二月十七日。あき太古「ヘフレウス」の暦法なり。

洪水出づ。此時密雲遍く布れ。猛雨やまがほり。凡四十晝夜地面全く没して。水諸山の頂を覆ふ。城邑人民すべて存する者あり。あきよいて。諾厄の妻及び三人の子三人の女并其家人等と共に。器財食物書冊等を持ちて。悉其大匣入り。波をよかして飄流り。第七月の二十七日を以て。亞爾墨泥亞國の「ノウロス」山に至りて止る。此時天晴て。始めて虹霓を見る。するもち相共匣をりて。山頂に登り。菓を採てあきを食して。皆命を全る。彼洪水ハ凡一百五十餘日

第二の世界 オキ ます。是より以後の事を「テウエーテ。ウエエレルド」
新世界と 呼ぶ。彼匣中の衆人の之存活して子孫を生じ人類再生育
 して。新よ一世界を立ちすが故なり。諾厄を以て存活し
 て。天の恩を謝して。始めて「アルタール」神前 なる卓 を 作す。
 美香を焚て拜祀し。是より於て百菓草木禽獸蕃息
 す。便葡萄を醸して。始めて酒を造る。諾厄の三人乃
 子。其小子を「シヤム」といふ。最聖徳あり。シヤムの諸子の
 中よ。カナアンといへる人。すく聖人ありて。始めて如徳
 亞國を開く。故に如徳亞國の古 名をカナアンといふ。シヤムの二兄長をヤヘット

といひ。次をセムといふ。此三子ハ即彼國萬姓の祖なり。入ル馬泥
 亞國を開基し。アスケナスといふ人ハ即ヤヘットの孫なり。云
 按。ヤヘットの子をゴメルといふ。其子ハ即アスケナスなり。其
 他ムスコビヤ。弟那瑪ル加。拂郎察。是の亞等西北諸國ハ皆
 ヤヘットの子孫を開き。亞細亞西南諸國ハ皆セムの子
 孫を開けり。如徳亞國の大聖人。亞把刺枕ハセムの孫なり。
ムその子。セムの子ナホルナホルの子テラコ
世ハセムをアルルツ。ハドトルと稱す。
 再按。アルタアルハ火を燎て天を祭るの基なり。
 按。魯西亞本紀云。ヤヘットの第八子セルツシユスと云。
 その治む國を魯西亞といふ。又ヤヘットの子メセコといふ。

ソノ者ありて其治むる國をモスクワと云魯西亞後世其地
は都に故に總國の號を莫斯科未亞と云記せり。

其匣中所藏の書ハ皆「ブレウス」の文字を以て記せり。後世
傳へ大聖人美瑟と云者今を去ると三千
三百年前の事なり是を脩書して今世傳ふ。

按ヒブ子ルス名が萬國傳信紀事ハ曰アル墨尼亞國ハ
高山ありアララトといふ百兒西亞國の「エリハ」城を去る

と遠うらび是上古聖人諾尼の「アルク」上は舟洪水の時
是は止まり居り。今に至りて當時の

遺跡尚存ハたゞより。アル墨尼亞等諸國の人其
を稱し聖蹟と云はれ此山に登りてその遺蹟を拜

禮すといふ。又按よ上より「ダウロス」ハ極て大山
ありて「アララト」ハその山の内より一処の名あり。
又按よ洪水の事を物理小識に載せて曰天地開
時初有水荒云々太西言洪水時アル墨尼亞為
甚猛雨四旬地面全没止遺諾尼等數人考其時
當帝嚳之八年壬辰云中國洪水在堯時是一徵
也云々

罷鼻尔の高臺の説

太古の世ハ人類聚居して言語を「ブレウス」の一種
の洪水の後よりして機智漸く生る人心奇異を好

ひびきえち「シ子アル」アツシユル等諸部の酋長等相
 議して「シ子アル」の平地において大なる土木の工を興して
 極めて高大なる樓臺を建て天際を窮めんとす諸酋
 會聚して工を監して漸く數十層を成り此時は天の
 傲慢の志を憎みて忽ち諸人の語音を種々異にして
 是に於て諸人言語相通ドゴク彼此紛雜して工を成
 ことを得ば皆各退散して臺遂に成らばち諸邦語
 音を異にするの始あり其臺を建つる地を「ブレウス
 の語りて罷鼻尔」といふ是を和蘭語に翻譯すれば「バ
 ウルリニギ」といへる事として即ち「ル」といへる義あり此臺

の遺址ハ今の百兒西亞國の「オウトハックタット」といふ
 城の傍にありて歐法臘得河を去るち一里四分の一
 半里日本のありといふ

按以上の諸説ハ蓋彼邦の古書に載する所
 して其説或巫祝に近しく厭之べきものあり西
 洋の俗臆説をちりたりとある風あるより
 て姑傳記よりして是を記すの事按以上の古の事蹟
 を記す所の事
 唐土朝鮮琉球天竺諸國すべて怪談あらぬは
 西洋にても此外地中海の「セイチラ」といふ島ハ太白
 星の神海泡を化して地とすといふ又「シリア」國ハ其
 初ハ形貌きめて長大なる一種の異人古きを聞
 とある他邦の人を取食ひて歳星の神を平け
 てあらうと人民を造りてありといふ類多きあり

西洋古今四大君の説

西洋上古より今よりするまでの帝王を稱して曰イ
 ル。モナルク^トと^ソふ。あはれ四の大君と^ソふ事あり。第一
 ハ罷鼻落你亞^ハ。西洋開基千七百十七年より。第二ハ百
 兒西亞^ハ。西洋開基二千四百一十年より。第三ハ厄勒奈亞^ハ。
 西洋開基三千六百二十年より。第四ハ邏馬^ハあり。西洋開基
 より。三千九百零二年より。第四ハ邏馬^ハあり。西洋開基
 零二年より。今に至りて。尙相繼ぐ。此四代の世系沿革治
 礼興廢の事ハ。西洋史書に載するところ。頗詳悉あり。
 今其の大要を採て左に記し。以て考證の一
 助に備ふ。

罷鼻落你亞并百兒西亞の二大君歴代

傳統の説

西洋開基後最初の帝王ハ。罷鼻落你亞國あり。此國一
 名「バヒロニイン」又名「アツセ井リア」。又名「カルデア」と^ソふ。
 今の百兒西亞^ハ。アルメニア^ハ。ペルシア^ハ。又「エイラクアラ
 ビイ」等の地。な其屬國と^ソるゆえ。地方極めて大なるを
 初め聖人諾厄の第三子シヤム^ハ。洪水の年を以てその子
 キユスと生む。一曰キユス^ハ。メソポタミアの孫と^ソる。是するをち
 巴中興革命の年を去ると。凡二千三百二十七年前に
 り。あはれ「バヒロニア」あはれ黒人諸國の祖と^ソり。キユス

西洋開基第一千六百八十二年を以て鎮星の神の保ホウ護よりて「アツシリア」の地を開拓セキを其子ニムロドの世に至りて始めて諸部を臣服して「バヒロニア」國の大業を開けり。ち即西洋開基第一千七百一十七年より。或ハ洪水後二百七十六年。二國を開くと。或いそくニムロド一名ベリユスと号れと。或曰。ニムロドとベリユスも別人なりと。其詳あるを知らず。ニムロト才徳ありて國人歸服。在位六十年よりて。位を其太子ニニユスよりつゞふ。ニニユス死して。其後瑟弥辣未斯位を嗣ぐ。のち印度および「モ一レン」黑人のの諸國と戦ひて。皆是は勝ち。西洋全史は「すゝは是を」國土を開拓セキ。威徳日は盛なり。をなすも始めとす。

昔時天よりて人の言語を礼する。罷バ鼻ベ尔ルの地は於て大なる石の工を興して。大都城を築く。名けて巴必バ鸞ベと漢譯す。把。其周廻はおよそ三百六十八スタヂイ彼私に作るン。いまの西洋の四十ハ里は當る。精石を以てカキ。其厚さ三丈二尺餘。高さ十餘丈。其間二百五十餘処の高臺あり。皆高さ二十餘丈。欧法臘得河と「チギリス」河の流を引て大ホリ。其の渥甚廣くして。あまのこの大船を浮ぶべく。まの城樓の上。花園山水諸景ありて。其廣大美麗なる。世界七奇の第一とい。瑟弥辣未斯ヲ。其太子ニ子イアス位を嗣ぐ。是より子孫相嗣で

西方の大君より。その後統を傳ふるに三十四世あり。其
 一千三百零五年よりして。一、五十五年は作る。按、此世數
まよ似たり。あそりくハ上古の事蹟。今遺漏ある。まうとて
ハビロニアの史書ありて。西洋全史ありと云ふ。記するもの
まよとて。世數の事。其諸王の内は。於て數は。サルタナ。パリュス
入ると。入らざる。とある。尚進て考ふべし。
 王コケロスと云ふ。の代より。昏愚にして。淫荒を
 恣り。徳衰へ政礼も。國人怨み叛き。干戈邦内より起り
 て。戦争やまらば。國王の別郡「ニマ」城ハ昔より第一世
 のま。ニユスの建つる所の。美麗ある大城あり。一、
「ニマ」城ハ「チギリ」あまの兵火は焼失し。邦内分裂を
「ス」河の邊より。兵火は焼失し。邦内分裂を
 て。遂に罷鼻落你亜と。默丁との二國となりて。王業

衰微せし。是則西洋開基第三千零七十七年の事あり。
ス#ビ
唐土周の厲王のハ
 其後此國王再祖業を恢復して。土宇
 を開んと欲し。大に兵を興して。如徳亞國を攻入
 りて。其國都「エリユサレム」城に至りて。陳營を設け。日
 を期して城を攻めんと。夜に至りて。忽ち「エリユサレム」
ル 天人身は羽翼。劍を以て天より舞下り。其諸營を
ウ 撃つ。罷鼻落你亜の軍士大に驚れ。甲を捨て。十
 八萬六千餘人一時は山谷に星散して。死する者甚多し。
 是より因て國勢ますます衰へ。後三百餘年よりして。遂に百
 鬼西亞國王セイリュスに滅する。是即西洋開基第三

千四百一十二年なり。本朝安寧天皇十三年。周の百兒西亞
 ハンと黙丁は屬する小國あり。レイチア國王レイチアハ小亜細亞
 の中よりあり。一名「レイシア」漢譯利細亞は作る。其女マンタナを
 あき昔時始て錢を造るの地なりといふ。以て百兒西亞國王カムベイセスは妻以て太子を生
 む。名けてセイリュスといふ。あき則百兒西亞國興業の
 始祖あり。セイリュス天資英俊よりて能兵を用ゆ。レ
 イチア國の内礼を靖め小亜細亞の諸國を降し。黙
 丁の王業を篡奪して國勢日は盛なり。罷鼻落你亞
 と相争ふ。あき數年よりて。志ばくあきは勝ち地を
 畧して「ゲインテス」河に至り。是を渡らんとする。水

濶くして其淺深を知らず。且舟棹あり。セイリュス則
 一疋の白馬を追放ちて水中に入らむ。あき是を試む
 る。白馬水を游ぐと甚速よりて直に渡りて向の岸
 へ登る。是は因て其水の淺き事を知りて。諸軍悉渡
 り。遂に進で罷鼻落你亞の國都罷鼻尔城を攻めて。
 相戦ふ。日を経る。此時城中の一臣百兒西亞は内
 應する者あり。門を開きて兵を迎ふ。是よりして百兒
 西亞の兵みな城中に礼入して。遂に罷鼻落你亞國主
 ナホン子チを擒めて是を殺し。其王業を代りて。西
 洋の大君より。罷鼻落你亞國開基より。以来九一千六

百九十餘年よりして國祚絶滅し此セイリュスハ尚諸國
 を併せんことを欲して兵を興して「メツパタミア」帝曷
 爾伯新「セイリア」如德亞等諸國と戦争すべしそ乃
 軍中より狙ハ在位九十八年なり。一ヨリハセイリュス王
 兵を以てセイリア國を
 破滅しセイリア國の舊臣是を怨む者ありて密に兵を聚めて
 セイリュスを弑す所の營を襲ひ撃つ百見西亞の兵破きてセイ
 リユス狙ハ百見西亞の人セイリュスの尸を將以て國に歸らんと
 する路遠くして不可なり則其頭を斷て桶に入せ人血を以
 て是を澆して國をち歸るといふ其の太子カムベイセス
 人血を浸すの理甚詳なり其太子カムベイセス
 多國王アマシスと仇を結び大に兵を起して是を伐ち
 連城を勝て厄入多の國都孟斐斯城を陥し大に殺

掠を恣る此時アマシスをぞり死ハ則其瑩陵を発掘
 してアマシスの「ケバルセムテ」の屍を上古厄入多國の典礼は
 體と臟腑を抜き去て種々の貴藥を以て是をまつめてのち厚く葬る
 是を稱してケバルセムテの尸といふ是千年を経ても朽損せず
 らしめんが為なり詳曳れ出して是を鞭ちまはし是を寸
 ニは切りきざしてのち是を焚て灰となしアマシスの太
 子ハいま位を嗣ぐの礼を行わず逃きて他國へ行ん
 とせしを百見西亞の兵追ふて擒し是を殺し遂に
 厄入多國を滅せり初め厄入多國ハ罷鼻落你亞國乃
 始祖ベリュスの次子アエゲイブトスなるもの亞刺比亞
 國に於てメラシホデン國の人と戦ひ勝て西南の地を

開拓して大業を成し五十餘人の王子ありて政を輔け
 國を治め子孫相續きて法制礼樂文學等皆全備し
 て國勢甚隆盛なり是に至て悉絶滅して遺る者
 少しといふ是よりカムベイセス兵を進めて利未亞
 國の荒沙按は法の荒沙の地ハ今のチアラ國の沙海の地よりして大風沙を
 揚げて行く處より兵士水は渴して死するもの甚多
 し是は因る兵を收めて本國に還る者少し其の
 ち驕慢無道殊は甚し百兒西亞國中は放く土地を有
 つ大商十四人を欺て捕へて生たから倒は土中は埋免
 殺し或ハ猛獸を縱て人を食せしめ或ハ人を樹に縛り

自是を射殺して以て樂とする其其他暴虐の刑甚多く罪
 なる者を殺すと計あるは勝る處より後「セイリア」
 國はわけて殺さる誰人の所為なることを知らば其死
 せる形状甚奇異なり蓋天報ありといふ在位凡
 七年よりカムベイセス在位の間子あり猜忌殘虐し
 て勳舊近戚大抵殺し盡して嗣とすべき者あり曾そ
 の弟スメルテスを殺さんとすスメルテス逃く其行く
 ところを知らずカムベイセス死して後忽スメルテスと
 稱する者ありて出づ衆是を見るは其形貌少し
 異なる所ありたり按は此事宋の柔福公主の夏と相似たりといふするを

京て主とり此人淫暴よりて位は即て後日先の二王の
 妃妾を以て之を己の妃妾とす其の後セイリュスの一
 妾志づるはあつて見るは決してスメルテスにあらざ
 ると知る因て其来由を試み問ふ果して一の妾男子
 ありてスメルテスにあらば則ち之を密に國臣に告げ
 よつて兵を以て襲て是を殺し然して真のスメルテ
 スに終は其行く処を知らず國人すたをもちダリウス
 を立て王とすダリウスもセイリュスの女塔あり是を
 稱して百兒西亞國第三世の大君といふダリウス賢
 才ありてよく仁を施す國人悦び服して威徳最盛なり

遠近諸國皆あつて畏る曾兵八十餘萬を興して歐羅
 巴洲の界に至りダリウス老て其太子セルセス位
 を嗣ぐセルセスもダリウスの次子ありといへども其
 母ハセイリュスの女よりてダリウスの元妃たるがゆゑ
 立といふ是より子孫相継ぎて西洋の大君なり國富
 く兵強くして世に威を諸國に振へり允統を傳ふる事
 十世二百十餘年ありて厄勒察亞國の帝王アレキサン
 テルに破らる國亡ひぬ是則西洋開基第三千六百一
 十年の事なり日本孝安天皇の六十五年唐土周
 の烈王の四十一年癸巳に當るといふ

梓ベルシニア百兒西亞國ホルランド和蘭の人ハ呼ヨシて「ベルシニア」
 曰ルセシベルシニア今亞細亞洲中ニ於テ最有名の
 大國ナリ。志ベルシニア今ノ百兒西亞ハ其後
 別ニ中興セリベルシニアのあり。

厄ギリキス勒察亞國大君の説

馬マセドニア則多泥亞國ハ其地「ギリキス」國の内東北ニある
 地アルシヘル其東ハ多嶋海ニ臨ミ、ギリキス其有
 富饒チウの國ナリ。其始祖をカラニユスギリキストギリキス罷バ鼻ビ落ロ你ニ
 亞國アの尚盛チウなり。時ギリキスハギリキス此土を開きて、是ギリキス
 王ギリキスより位を其子タウニユスギリキスニ傳ふ。タウニユス在位

十二年ギリキスありて卒ギリキス其子テユリマス立つ。テユリマス
 在位三十八年ギリキスありて卒ギリキス其子ベルヂキユス立つ。
 在位五十一年ギリキスありて位を其子アルセラウスギリキスニ傳ふ。
 是より子孫相續ギリキスて此國ギリキス王ギリキスなり。其後西洋開基第
 三千五百九十四年日本孝安天皇三十九年。周の烈王の十五年丁卯。アレキ
 サギリキスンギリキステギリキスルギリキス大ギリキス王ギリキス其父をヒリピユスギリキストギリキス祖ギリキスをアメギリキス井ギリキスン
 タギリキススギリキストギリキス並ギリキスびギリキス馬マセドニア則多泥亞國の王ギリキスなり。母ギリキスとオレ
 イムギリキスビギリキスアギリキススギリキストギリキスソギリキスエギリキスビギリキスロギリキススギリキス其地「マセドニア」の西ギリキスあり。
 の内「モロッセルス」國王子オプトシギリキスミギリキスイギリキスの女ギリキスナギリキスリ。是
 歲八月第六日「チングスタック」火曜日を以て馬マセドニア則多

ぐて斬獲六千餘級アテエ子シ國遂は降服すアレキ
 サンテル性潤達小して將士を愛し施を好む凡物を
 得るおとよ皆おとよを衆は厚く賜して敢身よ止めを
 此時百兒西亞國ハ世ニ西洋諸國の大君よして地
 廣く兵盛よして府庫の富よよふるをうらむ百兒
 西亞の人曾馬則多你亞よ来る者ありアレキサンテ
 ルガ厚く施して身よ富よよざるを見て是を譏りて
 いそくおよそ國ハ府庫富よよあらざるバ國用足ら
 べうらむ君の府庫はよして何事の所よあるやアレ
 キサンテル答ていそく我府庫ハ親友將士の心よ何

りと百兒西亞國の人その答を異なりと次年二十う
 てヒリヒユス王病く短けすたをもち位を嗣ぐいづげ
 たるしてタラシア「フウニオン」ハル馬泥亞等の諸
 國と戦ひて皆おとよ勝ちタラシア國王レイスマニ
 スを斬りタラシアハ今のギリイキス「テベン」國を併せ欧
 羅巴洲東南諸國皆降るおとよりして兵威日盛
 よして漸く亞細亞洲の地を蠶食す百兒西亞國
 王タリウスコトマンニス是を惡む則百兒西亞國中
 「マンノン」ロデイセル等の地兵歩卒十餘萬騎士一萬
 餘人を發しておとよを撃つむアレキサンテル兵を

以て是を迎へ戦ふ百見西亞の兵多きと數倍よりて
 馬則多泥亜の兵中、怖る色あり、或ては圍を受ん
 と欲アレキサンテルをもち自兵器を執り、矢石を
 冒して敵陣に入る。左右是を諫めていとく事すべし
 危し君を早く退きて身を免るべし。アレキサンテル
 いとく汝等ハハハ我親友なり。すべし事すべし。至る
 生死を同くすべし。我何を親友を捨て、いとく身を
 全うせんや。是は於て士卒皆奮激して、百見西亞乃
 堅陣を衝く。遂は大は是を破る。首を斬ると一萬餘
 級俘虜の數もはくはまきし。稱ふ此時馬則多泥亜乃

大将九人士卒二十餘人戦死しアレキサンテルはとく
 其屍を求めて是を葬り、碑を建て、其功を録し、其
 遺す所の老幼を撫育し、是よりして衆心感激して、
 為は死力を盡し、レイシレン、ハムベイリアの二族
 國もよび「フレ井チア」國を降る。此時西方羅馬ラ
 テン等諸國、仇を結び、兵連あること數年とあり。アレキ
 サンテルの志を和諭し、諸國みよ是よりして、西洋
 開基第三千六百一十七年。日本孝安天皇六十二年。周百見
 烈王三十八年庚寅。當る。百見
 西亞國王タリウス。コトマンニス大は兵を起し、歩卒
 四十餘萬、騎士十餘萬人を以て、自將として、まきり

トキス」を撃つ。此時アレキサンデルすゞは「シリシオン國地志を辨しシリシオン國は攻め平けて境内の衆をつゞりて「セリ」國を小亜細亞の西邊あり」の「ダウロス」山に於て是を拒ぐ百見西亞國王衆を待て備を設けり。平原に屯して士卒みな怠慢せり。アレキサンデルすゞは兵を以て其不意に出で掩襲し大に是を破る。百見西亞の兵皆潰散し死する者十二萬人。百見西亞國王僅に單騎して走り去る。是よりして百見西亞國王恒に駕するは其の寶車および佩ぶる所の寶弓を得ず。其王の母と愛妃子女を得たり。アレキサンデルあへて是を輕慢

せば礼を以て厚く是を養ふ。遂に勝りてそれ別都を攻取て得る所の儲蓄珍寶を悉く奪ひ去りて小亜細亞の嘉里亞葛八多西亞那多里亞馬西亞厄弗俗等の諸國を攻併せ地中海の諸島を降し。西リヤの諸國を破り「テイリュス」國を滅し。弗尼奈亞國を降し如德亞國主および其國都「エリュサレム」城の僧官の主等皆歸服朝謁して寶を獻げあへて地を廣大し。歐法臘得河を以て百見西亞國と界を分ち其近傍「バヒロン」等の諸州皆降る。百見西亞國王悉く敗れて封疆日よ蹙るを見て其忿よこへ

以國中令して大小軍器を造り諸將と議して大
 兵を興し、まゝ韃靼是の亞等諸國の兵を招き集
 め歩卒八十餘萬、騎士三十餘萬、戈甲備足して軍
 容きとめて盛なりアレキサンデルも亦諸國の大軍
 を帥して、欧法臘得河に至る戰を交ゆ、百兒西亞の人
 前度の屢敗きて辱を取ると憤り、誓てギリキスと
 殲滅せんとして其鋒甚銳し、アレキサンデル則奇計
 を廻して、精兵を合し其後廻り出、前後相應し
 て、其中軍を衝し悉是を破り、首を斬る事九萬餘級、
 其他死する者計ふるは、ゆゑに甲を捨て兵を解

四方小潰れす、馬則多泥亞の騎將、バルメニオなる
 者、驍勇絶倫なり、北を追て、百兒西亞國王ダリウス
 ・コドマンニウスを鎗を以て刺殺し、あつて、アレキ
 サンデル大に勝利を得て、ダリウス・コドマンニウスの屍
 を、王者の礼を以て厚く是を葬り、其騎將を重く
 賞し、これより兵を進めて、東方諸州を攻破りて、そ
 の明年、百兒西亞の國都「ペルセポリス」城を拔き、持
 れ國を滅して、西洋大君の業を代りつので、東方「バサ
 リア」國を滅し、其地をわけて大に射獵をたし、獅子
 虎豹諸獸を獲ると、其數は、幾萬をもつて、かぞふま

南の方亞弗利加^{アフリカ}にむかう。既^{エジプト}入多國を平げ、其地
 に大城を築く。あま今の「アレキサンテリア」城^{アレキサンテリア}なり。
 あま、次^{シイ}で利未亞國^{リミア}を降して、黒人國の界^{イリ}をいさむ。其
 の地を開く。後、大軍を以て、天竺^{インド}印度國を攻敗
 りて、印度の總王を擒^{トリコ}む。その他の印度諸國を破
 滅し、東の方安日河^{カンゲス}に至り、兵を收めて、本國^{アフリカ}に還る。
 威徳四海に及びて、西^{モサ}ハ歐羅巴^{ロバ}の諸王國、南^{アフリカ}ハ亞弗利加
 洲の黒人諸國、北^{シケ}ハ韃靼^{チナ}是^ア的亞諸國に至るまで、其の
 朝貢して、方物を献げ、則^キ帝都^{キス}を「キリーキス」國^{キス}に建
 ち、其子弟功臣を諸國に分ち封じて、王とする。あま西

洋開基以来、前後無雙の英雄の帝にして、地の廣きを
 まるく古今比する。是より統を傳ふると、あま其
 百八十餘年にして、邏馬^{ロマ}の國、威徳隆盛^{リウ}にして、キリー
 キスに代りて、雄を西洋に稱はると。

邏馬國大君の説

邏馬國^{ロマ}、拂郎^フ郎^ラ察^スの人ハ「ロウメ」といふ。和蘭^{ホル}の人ハ「ローメ
 ン」といふ。其地意太里亞國^{イタリア}の中央にありて、地白里^チとい
 へる大河のなみ古より天下有名の上國なり。其
 開基の始祖をロムリウスといふ。幼稚の時、其父母難不
 遇^{ナシ}、ロムリウスと、その弟レミヌスとの二人を、地白里河^チに

まてしり然もども天の加護あるも、二人の小兒皆浮き流さ
 る。敢スレバ沈シムまじ。時、一個の羊を牧ふハカステリウスといふ人
 あり。是を見て甚奇異する。其凡人はあらざることを知
 故に上げて家よ歸り。是を乳育ひのち成長する。及
 んで、英才人よ越え、衆を懐集カケテ集ム。遂に此國を開て
 王とたゞし。法令制度よく備り。其ロムリユスの名よ
 よりて、國を邏馬と號ひ。あま「ラテン」國第十二世の王
 の時、當りて、即西洋開基第三千一百九十七年あり。
 唐土周の平王の二ニ十年庚寅カケテ、カケテ邏馬國開基の元年と稱ひ。然
 ちども、唯一方の國王づるのみ。其後此國王ジリウス。カ

アエサルアエサル、そのあめの、英武絶倫。して、戦ふて、ようたらば
 勝ち、むふとあらあへく敵する者あり。ハル馬泥亞ハルマニア
 インランドインランド「カッリア」今ノ拂「ヘルヘシア」イヌハニア、伊斯把イスタ、諸國臣服
 して、威徳日盛。其後遂に「ギリキス」を併せ。欧
 羅巴ヨーロッパ總洲一統の帝とたゞし。是西洋開基第三千
 九百零二年の事なり。日本崇神天皇五十二年、漢の
元帝初元三年乙亥、此後
 統を傳ふると三百五拾餘年。して、其國大に充満。諸
 帝争ひ立て、戦争やまじ。此時其帝コンスタンティヌム。マ
 ニムある者マクニコム大と云とよ、英雄賢才の主として、悉
 諸僭偽の主を追討。邏馬の帝業を中興。諸州の大

礼を平定して、^{アジア}亞細亞、^{アフリカ}亞弗利加の諸國をなす。是は臣服
 して、是はにおいて新なる大城を「タラシア」國を築き、^{タラシア}「タラシア」
 を改めて「ローマニア」又新羅馬と号す。其城を「コンス
 タンチノッポール」と名く、^{コンス}「コンス」を東都と号す。古の邏
 馬を西都と号し、此帝をなす。文學を好み、東都に
 書堂を建て、書を積むと二十萬冊に及び、此帝の
 母后も甚賢徳あり、帝と共に古聖を慕ひ、賢者を敬
 みて、賢女の名世に著す。そののち五百年のち、^{カール}「カール」
^{ゴロート}「ゴロート」帝の世に至りて、その後上は^{大なり}大なり、西都を^{入ルマ}入ルマ
^{泥亞}「泥亞」國の「ウエ子」の地を遷して、まゝ大都城を築き、

古の邏馬の都を教化王所居の都とする。帝すは「ウエ子」
 を遷りて、尚今に至りて稱して邏馬の帝といひ、^{入ルマ}入ルマ泥亞
 國の別名を「イリケシム」セ。レイキと號し、邏馬聖國といふ
 義なり。其地を分て十道となり、百官法令全備して、教化大に施
 して、^{政羅巴洲}政羅巴洲に學校を建て、人士を教導するを、實に此時より
 して盛なり。又七屬國を置き、號して邏馬帝の輔政七官と
 して、其七國ハ「メンツ」ハ^{入ルマ}入ルマ泥亞國の庶政を主り、^{チリール}「チリール」ハ
^{ラト}「ラト」國の教を主り、^{ケウレン}「ケウレン」ハ^{意太里亞}意太里亞國の教を主り、^{ボヘメン}「ボヘメン」
 國の貢賦礼法の事を主り、^{ベイエレン}「ベイエレン」ハ賦税供食の事を主り、^{サキ}「サキ」
^セ「セ」ハ征伐の事を主り、^{フランゲン}「フランゲン」ハ財貨寶庫の事を主り。

近世よりして「バルツ」「ブロンスウエイキ」の二國を加へて九官となすといふ然して今を去るると三百餘年前は東都「コンスタンチン」ポール城ハ都兒格國は奪とていふも入ル馬泥亞の帝都ハ今に至りて隆盛富饒よりて其廣大美麗なること紙筆は竭けべからず此邏馬「ウエ子」西都の事状大畧ハ予訂正増譯采覽異言の中一記ハ故は是ハ贅せし凡昔時ロムリス邏馬の鴻業を開きより今茲辛酉に至るまで合せて二千五百五十三年のちとて云
 按よ「メンツ」「子リール」「ケウレル」の三教官の長よりて他ハ皆政官の長たり今に至るまで入ル馬泥亞國中の諸族君長大ハ帝畿の地ハ會するの時ありて此時政令を議し

法教を布た人物を考撰して官を授くと云ヨシニアオツデニス所刊の萬國細分地圖の内ハ又詳ハ此事を記して其圖あり輔國九官ハ上ハ坐し各國の諸侯ハ左ハ坐し法教を主る諸官ハ右ハ坐し帝畿の別都を治むるの守令ハ下ハ坐す其順次悉定りあるなり

西洋中興革命の説

西洋開基より今茲辛酉の歳に至るまで凡五千七百四十八年なり然るも開基より第三千九百四十七年ハ當りて一聖主世ハ降誕ハ此王神靈聖徳ありて諸國ハ教を施し文運大ニ開け制度全く備るを以て遂ハ其聖主誕生の次年を以て中興革命の元年

と稱す。日本垂仁天皇四十一年。唐土漢の平帝元始元年辛酉（一）。西洋諸國皆其正朔を奉じて別年號を建する事なく。今茲辛酉（二）に至り。中興革命の第一千八百零一年あり。

按。唐土近傍の唐土文字を用ゐるの國の外ハ。其已國ニの開基。或革命の年を以て元年とす。別年號を建するハ。ハナシ。明史の外國傳。瓜哇國宣徳七年入貢表書一千三百七十六年。盖漢宣帝元康元年（三）乃その建國の始なり。又池北偶談。俄羅斯國以順治十七年遣使入貢。不知正朔。自称一千一百六十六年。康熙十二年土魯蕃表文の後。一千八十三年と稱す。或記。今考。

「ブレウス」の少年火中に入て焚け

ざる説

上古の世は罷鼻落你亞國主「ナボカド子サル」ハ其父祖の業を嗣ぎ。世ニ西洋大君より。國富く地廣く兵強く威盛り。遠近諸國を畏る。かくまひて驕慢の心日増長。天地世界の内我をおよぶめれ。とす。ち鑄エ命。黄金を以て己像を造らしめ。其高さ十二丈幅三丈餘。その國都巴必鸞城邊のテユラ。平坦の地に於て大群臣國人を會し。天を祭る時の音楽を奏し。令を下して曰。今天地

真主ありしす。汝等敬んが是を拜すべしと己ハ
 金像と共に高臺の上座して其拜を受く又いとく
 せし拜せざる者ハ是を天日背くなり。ふらむあるは
 火中ニ投じらるゝとすたもち側ニ大坑を設けて火
 や其中ニ熾す。國人多し其嚴威を懼みて拜せら
 る者たあり。惟へブレウスアサリアの三人の少年アサリア名
アブテナアハニアメサツクアアル盛徳弘の
ゴトリて世擧て是を尊重せし者あり。ふあはく拜
 礼を行はば王あを召て其故を問ふ三人答てしを
 大王洪福あるて天命を受く。大國を治めしふハ皆

あは天の恩徳はあらざるや然るも今々の恩を忘りて
 自天地の主と称し。ふまふは臣等が君は叛きて自王
 と称するは同ド。是大王自求めて罪を天は得たまふは
 のし。臣等實は大王を以て礼命なりと思へり。い
 んぞ其礼命は後ひふをうつらんや。王大は怒りて曰我今
 汝等を彼の火坑の中ニ投入せん。誰人か汝を救さん
 や。三人がしなく。臣等やとより人の救を望むはあらば焼
 け死なば死なんの。決して王の礼命は忘るべしとて
 王のし。いふて。左右は命じて。ふらむあるは三人
 を熾火の中ニ投入しむ。三人はな火中ニ徐歩して。衣

服身躰少しと焼け焦きず容貌自若として拾平生は
 異らば群臣國人是を見る者驚異せざるをなり是は
 於て王大に驚き悔て自臺を下りて三人を請ひ招き
 て礼待して罪を懺悔しとちもちと彼の所鑄の黄
 金の像を毀しめ是より三人は師と事へくその
 言を用ゐ國大に治まりとなり

天より瑣奪馬國を焼く説并瑣奪

馬の異菓の説附西洋諸國男色を

禁ずる説

西洋開基第一千九百四十九年唐土復后氏アツセイ

リア國の人落徳とソへる者。林は落徳ハ如徳亞國の聖人
 其の母および弟妻子家人と共家を持して瑣奪馬
 國より出て居住し瑣奪馬ハ如徳亞國の一部なりて
 土地肥饒物産蕃盛なりて居人すべし富み榮えり西方
 有名の都會なり然して此時瑣奪馬國風俗壞れ
 て人倫の道を失ひ男色を恣りて其近郡「アダマ」
アダマハ太古アダムの遺址なり「ゴモラ」一名アマラ又ゴノモラと
ラ「ソ」ち如徳亞國のベクタホリス州五城の一なり其最北は
 即西洋開基第一千八百七十年の時築く所なりと云
 の兩地と共罪を天は獲りて天
 下を是より重罰をあへんとす其國中萬民の内は唯
 落徳一家のみ仁慈善良なりて徳義著聞するよし

天すたるとら「エンゲル」羽翼ある天人なり一名ヘエメルホツ
 を遣ツカてて落徳ロツテスを告げて他國を往ツクるも落徳ロツテスがしを
 くその國の人罪實サシを重オモシく萬姓の殲滅サンメツすもす
 憐アハレむべし「エンゲル」のつとく惡を罰せずんば何をもつて
 善を賞せん汝速スミカよ去るイ落徳ロツテスすなりち親眷家人
 と共トモに家を收拾シウシヤして他國を往ツクるすぐる瑣奪馬ソツトマの界
 を離ワカれて去るを回り望めぬ熾炎シエン天を接ツキれ去る落徳ロツテス
 が界を出るを待マツて天より天火を降ツクり地より硫黄焰
 硝を噴フて出イて去るも美麗なる瑣奪馬ソツトマアダゴゴモ
 ラの城邑人物草木鳥獸悉焼滅シヤクして曠漠の惡地とな

りて今に至りて其跡存ツキりて地の惡きと昔コトをかたむらひ
 傍ナリに大湖あり名けり「ドローデゼー」ドローデゼー」羅匈語
 といふあき死海シハイといへる義イなり其湖中たえ魚
 貝等の生類ナマモノなれ故なる湖中恒ツネに大脂塊オホシを湧ワケ出イる人
 ちを採ツクりて以ツて藥用ヤクに供ツクり名けり「ヨーデン・レイム」
 といふ此湖頗オホク廣ヒロクく去る昔時焼ヤクきたる時トキにその土地多
 く焼け崩クズれて大半ハ湖中ウミに脂シ没ボケして故コトなりといふ
 ヒブ子ルスヒブコルスが所撰ショケンの萬國傳信紀事マンコクデンシンキジの下編ゲに
 死海シハイの邊ヘに一種イツシュの木を生ナれ其形狀シヤウキヤウ我歐羅巴洲オウロパに在
 るといふの「オキセイア・カンタ」刺棘多き木なり和蘭
語りてハバゲドール

ふ似たり。此木は葉を結ぶ。これを「ラテン」語とて「ホモ
 ムソドミチキム」といふ。和蘭語とて「ソドムス。アッペル」
 といふ。此菓色鮮妍愛すべく。白くして圓く。橘柚の小な
 るものごとく。其肉も白き種子滿ちて。橘柚の類の
 いまぐらうて。熟さざるものと同く。液汁をくく。澁
 く食ふ。腐らば。此菓日を経るよ。あるがひて。幹の上も
 つて乾けむ。色變じて黒く。是を破ると悉くな。飛び散
 りて。恰フカモ灰塵の如く。といふ。此菓のこもハヨハン。ヤルユツプ
 アムマンといふ人。所撰の如エ徳亜國の紀行書。あまじ
 タキトスといふ人。所著の書。まろくヨオセフスと云

人あらむ。如エ徳亜國紀事の書等。載るとい
 ろ皆同じ。相傳ふ。頑奪馬の地すべし。荒廢は。天の
 奇異なる。菓木を生じて。其遺址を識し。以て後人を
 識む。といふ。ちとちと。

按。西洋諸國。今に至る。男色を禁む。こと
 極めて嚴密なり。是をその人倫の理。背くを以
 つの故なり。蓋カシ女色淫亂なり。其分別たす。ハ
 殆ホント犬豕の行に似たり。男色は。犬豕より。敢たさぐ
 ること。ろり。天理人倫。よそむく。最とす。故
 り。男色を称して。オン。トクケフ。テールケンテ。

ナテウルクと云ふ是ハ非法非礼にして人の生理を
 そむくところを義なり。かくを以てありしを
 犯す者何れも直に火を以て是を燒殺し諸國
 皆然を號して「ソドモイ」といふ。蓋瑣奪馬乃
 近音なり。意太里亞國はあつてハ乃猛獸
 を以てちまを咬殺さむといふ。

茅索祿斯王瑩陵の說

昔西洋開基第三千五百九十七年日本孝安天皇の四十
二年唐土周の烈王の
 十八年庚午アミアミル小亞細亞の嘉畧亞國王茅索祿斯卒ハ在
 位九十四年あり其後亞爾德弥細亞悲アアルといふ一

國の力を竭して茅索祿斯王の瑩陵を築くその規
 制すべく樓臺の如く層ニ上昇して極めて崇高なり
 内より外に至るまで悉美ある玉石を以て造建しそ
 の制作の巧妙美麗なること紙筆ははくすべからず是
 なく天下七奇の其一なり。造建すぐる終らんとい
 て后それ夫王を憶念思慕してやらず遂は病と成り
 て殂れ制を称するに九二年なり。あつてあつてその
 弟イテリキニス位を嗣ぐといふ。

アレキサンデル大王諸將は寶物を賜
 ふ說并乞見は金を施を說

昔アレキサンデル大王百兒西亞國を攻破りて其國都
 ヘルセポリス城に入る此所ハある百兒西亞國累代の都
 城ありて金銀珠玉ハいふもあまらざる其の他奇異珍怪名
 を知らざるの寶物きとめて夥くして計るるは勝ぶ
 らず大王是を得て悉從ふところの諸將士小分ち賜
 ふ一臣あり奏して曰寶物真は惜むべし過て賜ふま
 と然る處うらむ大王のソとて我ハ諸將士を以て無上
 の寶とす金銀珠玉何ぞあまざる比をよも是らんやと
 蓋古今大業を興すの英主ハその識量萬國相異らざ
 るあり

ヒイテケレルクといふ人著すとてら此窮理奇觀
 の書曰アレキサンデル大王唯武徳絶世たるもの
 も知らず文學を尚むとす人ハ過をりある
 時一大賢者ありアリストテレスといふ此人天文
 地理悉究めずといふと形一大王是は師と事
 ふ恒曰我天下の主とすといふは榮とするは足
 らず唯一人のアリストテレスを得て師とするを
 を榮とすと云ニ其賢を敬ひ士を礼すること是類
 あり是事ハ又艾儒畧が西學凡より出でたり
 昔アレキサンデルすて東西諸國の大君となりて

のちろて國中を巡行し時一人の乞食者あり。駕の前よ向して數錢を乞ふ。大王左右よ命じて是よ千金を賜ふ。乞者大よ驚を懼て申し。其ハ乞食者なり。とて數錢を賜りて足まり。何を此多金よ何とぞけんや。大王の曰。汝ハ乞丐なり。唯數錢を乞ふを乞ふを乞ふの。我ハ帝王なり。千金よあらざるを施すよ足らぬと。悉其金を彼乞者よ賜りて歸らめりといふ。

君を弑するの賊雷霆よ撃するの説

昔「ギリキス」國主セノー在位十七年の間驕暴不仁殊よ甚く。其后アリアト子ハ羅馬のレオタラキス帝の

女なり其執政の臣アナスタシウスといふ者と私情を通じ

遂に相圖りて西洋中興第四百九十七年日本仁賢天皇十年唐上南齊

の高宗建武四年丁丑よはつてセノーの醉臥を乘じて是を匣

中よ掩殺して葬る。群臣國人其威を懼れり。あへて言

を發する者なり。爰よおいてアナスタシウスを立て國

王となす。然もギリキスの諸屬國馬則多泥亞

步而葛利亞翁加里亞等の國皆其亂逆を惡みてあへて

後たび各兵を起して是を撃ち。數年の間戰爭やまら

アナスタシウス性驕傲りて天地鬼神を敬ふことを知

らず。ギリキスの天文師プロリキウスといふ者。アナス

シレウスが天罰よ遇まんとも前知れ果して中興第五
 百十九年 日本継體天皇の十二年唐土梁の武帝天監十七年戊戌の七月九日 大小
 雷震ハアナスタシウス是を恐るる正寝より他室に移
 り避けしむる雷霆より震るて遂にアナスタシウ
 スを曳た出づりて地上に撃殺ハアリアド子后も亦死セ
 り是よおして國人先王レオの孫を迎へて位を嗣が
 めりしむる嗚呼天地の覆載するところ日月の照臨
 するところ孔臣賊子いづくんぞ其終りを令するを
 を得んや

カールゴロート帝邪魔の祠を毀つ説

サキリニア 沙瑣泥亞國昔ハ其地「ウエセル」エルベ兩河の間は跨りて
 甚大國あり土人すべし邪魔を崇信ハ故に其「シンテン」
 「オスナ」ブリユック「セリング」スタット「ハルベル」スタット
 等の諸城皆種ニの邪魔と奉じて奇異の形状を設
 け祠窟を立つまゝその「ヘルツ」ヒルグの城は一種の
 邪神ありあきまを「コロド」まゝ「バツテ」トルラルと名くそ
 の像身ハ人として首ハ龜鬘なり手ハ水桶を把て種ニ
 の花を盛る土人みなきよめて是を崇め信ハ其後此諸
 州すべし邏馬の帝の州郡となりてその政令を受る
 よおんぞカールゴロート帝とて諸の邪神の祠

守を破却し神像を斫り碎きて其諸地古の諸聖賢の廟を建くるその土人の汚俗を改む凡歐羅巴洲偏僻の地よりして政化何ぞ移く行むとて民俗すべく善は歸せしハ實は此帝の代よりなりと云ふ

地志を按よ中興第五百年の比よりして「サキソニア」勢盛りて其主ヘングストオルストと云ふ二人の兄弟あり「ホルステイン」の地より起りて今の「イギリス」國も亦々々七の王國を建くる又其地を開く殆入ル馬泥亞の大半は君よりなり中興第六百年の比より「サルマジア」と云ふ北方の國

よりして「ソルベン」一名「ウエンテン」と云ふ國起りて入ル馬泥亞の南東諸州ならびに「タルマシア」「シレシア」「博厄美亞」「ゴロアテヤ」「波羅泥亞」等の地は據りて其中又多くの王あり其は強勇を尚び邪魔を信ず然るも中興第八百年の頃に至りて「カーレル」「ゴロオト」帝皆是を平げて或教を以て是を化し或是を追討破滅し又「サキソニア」の主「ウイツ」「テキンドス」を大に破りて是を滅して諸國悉帝徳に化すと云ふ

主ピピスの子よりして「子ーデル・ハルツ」の内なる
 「インケルヘイム」城より誕生し王位を嗣ぐと三
 十三年よりして西洋中興第八百年より日本桓武天皇延暦
十九年唐土唐の徳宗貞元十六年庚辰よりして入る皇統を嗣ぐ在位十五年
 壽七十二大徳の王なりまろカーロリユス・マグニ
 スと号れ「ゴロート」マグニユス
共大とて其義あり

邏馬國銅甲の説

昔邏馬國開基第四十八年唐土周の桓王の十その國王ニ
六年丁丑よりしてユマ・ホムピリウの世よりして空中より大きたる龍響あり
 りてその音はさうも人の呼ぶ聲に類しや久し〜天

よりして一の銅を以て造りて鎧をその國都邏馬
 城に落すそ乃音大に地を震ふ識者よりして甲兵國を定
 むるの兆なりとひきまより數年前よりして意太
 里亞の總國大に疫疾流行し次で兵乱大に起りて諸
 州争戦休むは是よりして諸敵は敗れて國中
 ますます平治せり其銅甲ハソより至りて彼國は存す號
 して「アンレン」とりふ

西洋雜記卷壹終

